

阪南市埋蔵文化財報告XVIII

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要IX

1994年

阪南市教育委員会

# はしがき

教育委員会事務局が実施している発掘調査は、学術的な調査ではなく、いわゆる「行政発掘」とよばれる調査です。これは、土木工事等により破壊されてしまう埋蔵文化財を「記録保存」という名目のもとに調査を行うもので、緊急的かつ必要最小限の調査を行うにすぎません。

本書で報告する調査も、国庫補助事業として個人住宅等の建設工事に先立って実施したものです。「文化財保護法第57条の2」の規定に基づいて届け出られた書類を検討し、工事によって遺構や遺物といった埋蔵文化財に影響があるとされる部分の調査を行っています。大半の調査は、工事によって最も深く掘削のおよぶ浄化槽や便槽部分の調査に留まっています。そのほとんどが数m<sup>2</sup>程度のものですが、たとえ数m<sup>2</sup>程度といえその部分が工事によって破壊されれば、再びもとの姿に戻すことができないですから、調査を行い「記録保存」を行うことが必要なのです。

このように私共行政が行っている発掘調査は、破壊される可能性のある範囲を最小限度調査しているにすぎません。しかし、この範囲は必ず実施されなければならないものなのです。

教育委員会では、本年も個人住宅等の建築に先立ち、発掘調査を実施し、「記録保存」を行いました。ここにその成果を報告いたします。

今後も、市民の皆様に信頼される行政を行い、埋蔵文化財の保護はもとより、市独自の文化財保護条例の設置、歴史資料館の建設等文化財保護行政に一層努力をしていく所存です。

最後になりましたが、今回の調査にご協力下さった土地所有者をはじめとする関係者の方々に感謝の意を表するとともに、今後とも文化財保護にご理解、ご協力をお願い致します。

1994年3月

阪南市教育委員会  
教育長 庄司菊太郎

## 例　　言

1. 本書は、阪南市教育委員会が、平成5年度国庫補助事業として計画し、社会教育課が担当実施した阪南市内遺跡発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、阪南市教育委員会社会教育課三好義三、田中早苗、上野仁、中川義朗を担当者として実施した。
3. 本書内に示した標高は、T. P. であり、方位は既成の地形図等を使用したものを除いて磁北である。
4. 調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の理解と、協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
5. 本書の執筆、編集は、上記の調査担当者が行った。また、実測図等の作成は、下記の調査從事者による。
6. 本調査における記録は、実測図面、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

### (調査從事者)

宇沢克之、堀川武良、寺田久一、橋本康之、木下楠治、辻野 勝、和田旬世、井上祥子、石橋孝広、井上賢治、岩崎真子、岸本栄次、反甫安秀、丹羽 徹、川満一隆、村上亮平、中橋 泉、室谷順子

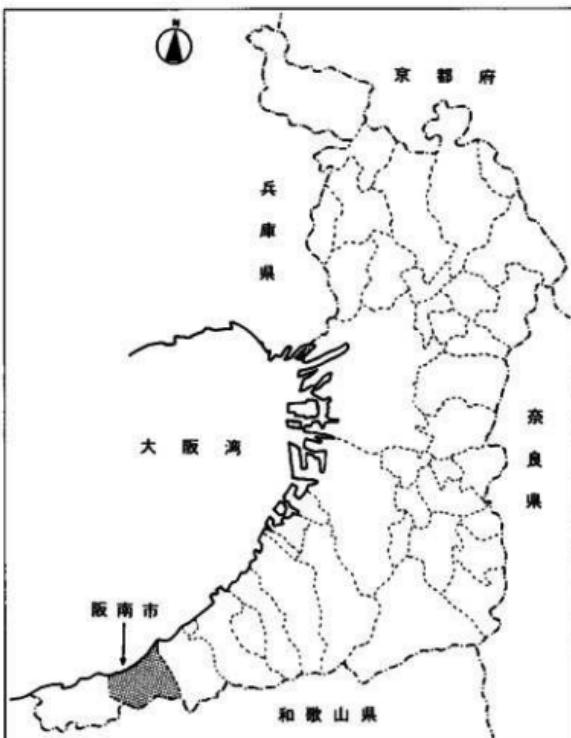
## 目 次

第1章 調査に至る経過	1
第2章 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	
第1節 馬川遺跡	92-5区
	92-6区
第2節 下出遺跡	93-1区
	93-2区
第3節 向出遺跡	93-1区
	93-3区
第4節 自然田遺跡	93-1区
第5節 和泉鳥取遺跡	93-1区
第6節 神光寺(蓮池)遺跡	93-1区
第7節 鳥取北遺跡	93-1区
	93-3区
	93-4区
第8節 波有手遺跡	93-1区
第9節 鳥取遺跡	93-1区
	93-2区
	93-3区
第10節 鳥取南遺跡	92-5区
	93-1区
第11節 西鳥取遺跡	93-2区
第12節 戎遺跡	93-1区
第13節 箱作今池遺跡	93-3区
	93-5区
	93-6区
第14節 田山東遺跡	92-1区
第15節 田山遺跡	93-1区
	93-4区
第4章まとめ	32

# 第1章 調査に至る経過

阪南市は、大阪府の南部にあり、大阪市の中心部から距離にして約40km、交通機関を利用した時間にして1時間弱の地点に位置する。こうした地理的条件から、大阪のベッドタウンとしてここ十数年人口が急激に増加している。こうした人口増加の背景には当然種々の住宅等の開発工事があり、この開発工事も増加している。開発工事の増加は、埋蔵文化財の調査の必要性をも伴い、ここ5年間に調査の件数は4倍にもなっている。

こうした工事の増加に伴い、1985年度より国庫補助事業として個人住宅等の建築に先立って発掘調査を実施している。今年度も15遺跡、二十数個所の調査を行った。そのほとんどが数m<sup>2</sup>程度の小規模なものではあるが、記録保存の観点からも意義のある調査であると考えている。以下にその概要を報告する。



第1図 阪南市位置図

## 第2章 歴史的環境

阪南市は、大阪府南西部に位置する。東に泉南市、西は岬町に接し、南西部を和泉山脈に囲まれ、北東部は大阪湾に接している。和泉山脈は海浜部へ向かって伸び、丘陵・段丘を形成している。その間を男里川、花折川、釈迦坊川、茶屋川等が縫うように走り、河川によって平野部が形成される。

北より遺跡の分布を見ると、まず男里川及びその支流域には、馬川遺跡・下出遺跡・室堂遺跡・向出遺跡・自然田遺跡等が位置する。佐智川流域には神光寺（蓮池）遺跡・黒田南遺跡・西鳥取遺跡等が、釈迦坊川流域には貝掛遺跡・金剛寺遺跡等が、飯ノ峯・茶屋川流域には箱作今池遺跡・飯ノ峯畠遺跡等が、田山川流域には田山遺跡・田山東遺跡等が存在する。このように、河川によって形成される平野部に遺跡が分布している。この他、昨年度男里川流域で尾崎清水遺跡が、今年度には佐智川流域で波有手遺跡が新たに周知された。現在、阪南市には約60数個所の埋蔵文化財包蔵地が知られ、年間60数件の発掘調査が行われている。このように、遺跡やその資料は増加の一途である。

時代別に遺跡をみてみると、縄文時代では、神光寺（蓮池）遺跡から草創期の有茎尖頭器が採取されている。採取品であるが当時の人々の生活の痕跡が考えられる遺物である。また、馬川北遺跡で晩期にかけての土器が出土している。また、玉田山遺跡、田山遺跡、神光寺（蓮池）遺跡等からは、石鏃等の石器が出土している。しかし、これに伴う遺構などは検出されていない。弥生時代では、神光寺（蓮池）遺跡において、中期の方形周溝墓が検出されており、石包丁や同時期の土器も出土している。また、弥生土器は、田山遺跡・馬川遺跡・箱作今池遺跡等においても出土している。古墳時代では、中期に箱作古墳が、後期に玉田山古墳群・塚谷古墳群・高田山古墳群が築造されている。玉田山1号墳からは、須恵器長頸壺、金環、銀環、琥珀製糸玉など多数の遺物が出土している。神光寺（蓮池）遺跡・田山遺跡等で同時期の須恵器・土師器が確認されている。この他、この時期の窯として玉田山須恵器窯の存在が知られる。奈良・平安時代では、波有手遺跡で溝、土坑等の遺構とともに、「海」「水」「省」「佐土」と記された墨書き土器が30数点出土している。田山遺跡で掘立柱建物跡、溝、井戸、落ち込みなどの遺構が検出され、須恵器、黒色土器、製塙土器等の遺物が出土している。このため、集落の存在がうかがえる。その北東に位置する箱作今池遺跡においても、掘立柱建物跡等の遺構が確認されており、須恵器をはじめとする遺物も出土している。同様に集落の存在がうかがえる。一方、平野寺（長樂寺）跡では、平安時代の複弁蓮華文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦が採取されている。中世以降では、遺構や遺物が市内のほとんどの遺跡で確認されている。中世期の集落の存在は、ピット、瓦器等が大量に出土した下出遺跡や神光寺（蓮池）遺跡、貝掛遺跡、箱作今池遺跡で想定されている。これら中世期の集落は、現在の新興住宅地をのぞく從来からの集落とはほとんど一致する。また南北朝期には、飯ノ峯川流域の山地に山城である井山城が築かれている。この井山城は、以前より文献上でその存在が知られていたが、先年の調査から、この地において国人たちの合戦が行われていたことが考古学的にも実証されることになった。近世期では、泉州特

産の和泉砂岩の採掘場である箱作ミノバ石切場跡やそれに伴う集落として飯ノ峯畠遺跡が知られる。同時期の村落としては、13カ村が成立し、このうち尾崎・下出・黒田・新・波有手・石田・中・自然田・山中・桑畠の10カ村が「鳥取郷」（「鳥取荘」ともいう）として一つのまとまりを示していた。これ以外の箱作・舞・貝掛の3カ村が「下ノ荘」として存在していた。これらの近世集落は、当然のことながら、現在の集落に受け継がれている。近世集落の多くは、近世でも初期段階の史料に記載が見られることから、その発生は少なくとも中世期にさかのぼることになると考えられる。これは、上述したように、中世期の集落が現在の集落と一致することと整合している。

このように、阪南市域では、海浜部に遺跡が多く点在している。これらの遺跡からは、須恵器・土師器・瓦器等の生活雑器に混じり、蛸壺・土鍤等の漁撈関係の遺物が出土していることから、当時における漁村の存在が想定されている。これが阪南市の遺跡の特徴の一つといえよう。

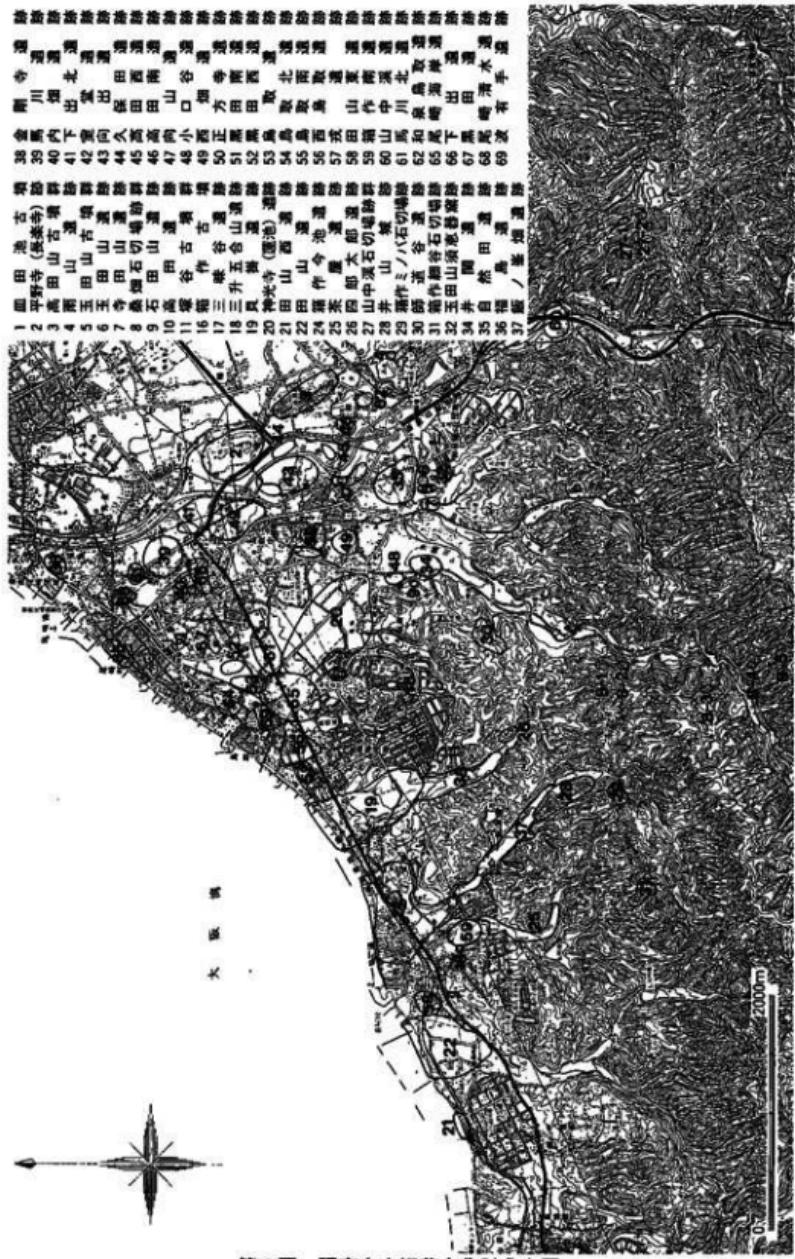
以上が、本市における埋蔵文化財を中心とした歴史的環境の概要である。以下の章においては、本年度国庫補助事業として行われた調査の成果を報告する。

（参考）『阪南町史』上巻 阪南町 1983年

『阪南市埋蔵文化財発掘調査概要V』阪南市教育委員会 1990年

『田山遺跡』（財）大阪文化財センター 1983年

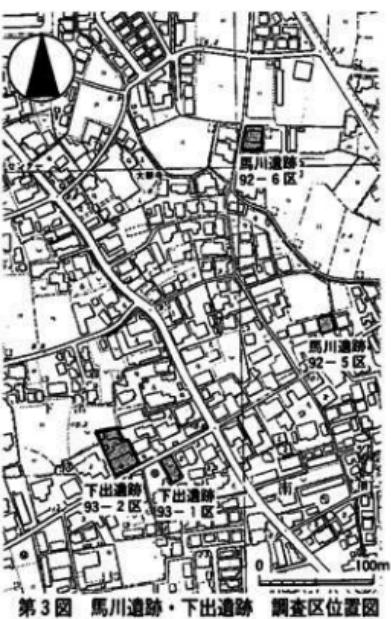
『井山城跡』（財）大阪府埋蔵文化財協会 1988年



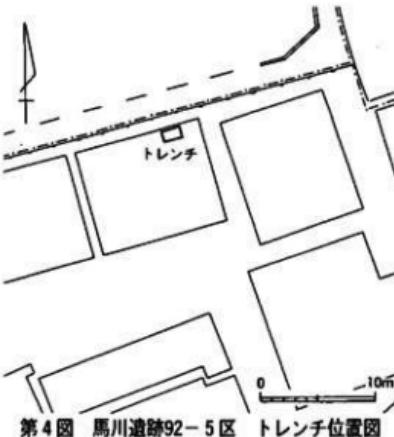
第2図 阪南市内埋蔵文化財分布図

# 第3章 調査の成果

## 第1節 馬川遺跡



第3図 馬川遺跡・下出遺跡 調査区位置図



第4図 馬川遺跡92-5区 トレンチ位置図

馬川遺跡は、市域の東端部を南北に流れる男里川が形成した砂洲に拡がる。これまで遺跡内において大規模な調査が実施された例はないが、1980年代後半以降の個人住宅建築等に伴う調査では、遺跡の東部分で弥生～中世期の土器が、西部分で古代末期以降の瓦が確認されている。このため、男里川に近い東側部分では弥生時代以降の集落等の生活跡の存在が、西側部分では古代末期の寺院の存在が想定されている。

### 92-5区

#### a. 調査の概要

調査区は馬川遺跡の南端部に位置する。調査は、調査区内に約2m×1mのトレンチを設定して実施した。近年の盛土以下の層序は、濃茶色土、淡黄灰色礫混土（無遺物層）であった。遺構は検出されなかった。確認された遺物は、すべて濃茶色土層からの出土である。

#### b. 遺物

図化し得たのは、須恵器の高杯1点のみであった。口縁部、脚部を欠損している。

この他、土師質土器、瓦、瓦質土器、青磁等が数十片出土した。

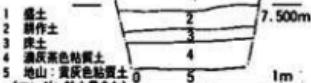


第5図 馬川遺跡92-5区 トレンチ南側断面図

第6図  
馬川遺跡  
92-5区  
出土遺物



第7図 馬川遺跡92-6区 トレンチ位置図



第8図 馬川遺跡92-6区 トレンチ北側断面図

## 92-6区

### a. 調査の概要

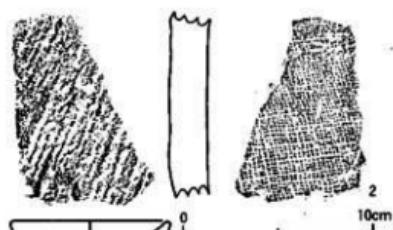
調査区は馬川遺跡の西部に位置する。調査は調査区内に  $1\text{m} \times 1\text{m}$  のトレンチを1ヵ所設定して実施した。

基本的層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層濃灰色粘質土、第5層黄灰色粘質土（無遺物層）である。

遺構は検出されなかった。遺物は第3層から土師器、近世期の陶器、第4層から土師器、瓦質羽釜鉢部、中国産青磁碗、平瓦等が出土した。

### b. 遺物

1は第3層から出土した土師器小皿、2は第4層から出土した平瓦である。凹面は布目压痕、凸面はやや斜め方向の織目叩きで離れ砂が施される。どちらも鎌倉時代のものである。



第9図 馬川遺跡92-6区 出土遺物

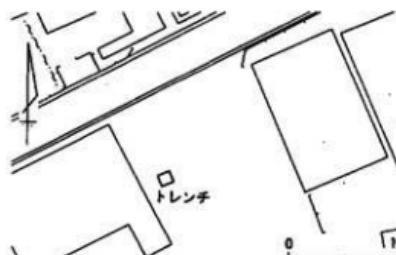
## 第2節 下出遺跡

1991年度の民間開発工事（91-1区）に先立つ確認調査で発見、周知された。

下出遺跡は本市の北東部に位置する。北部は内畠遺跡に隣接し、北西部は馬川遺跡に近接する。

遺跡の北部には信長街道が東西に貫通し、西部は南北方向の井関越街道と接するために古い民家が建ち並ぶ旧集落である。

先述の調査区をはじめ、遺跡の東半部における近年の調査や近接する馬川遺跡の南西部では中世の包含層、土坑墓やピットが検出され、特に鎌倉時代から近世期にかけての瓦片が各所で出土することから付近に古代寺院の存在が考えられるようになった。



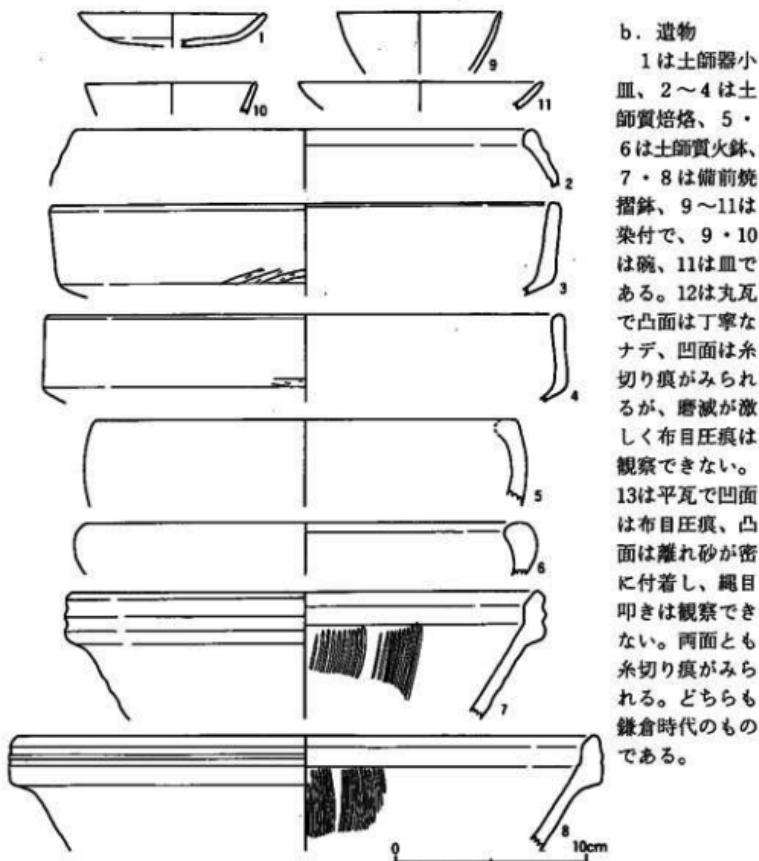
93-1区

a. 調査の概要

調査区は下出遺跡の北部で、後述する93-2区の東南に位置する。調査は、調査区内に  $1\text{m} \times 1\text{m}$  のトレンチを1ヵ所設定して実施した。

表土以下  $1.1\text{m}$  まで掘削したが近年の整地層（盛土）で土師器、須恵器、土師質土器（大甕・焙烙）、平瓦、丸瓦、陶磁器等が出土した。

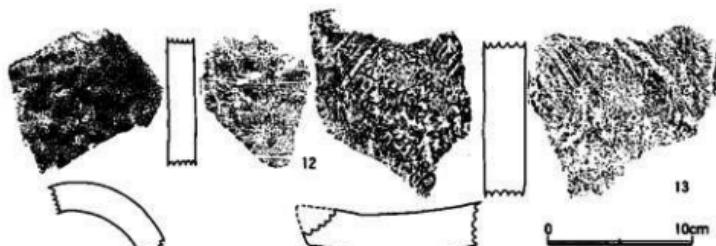
第10図 下出遺跡93-1区 トレンチ位置図 瓦、陶磁器等が出土した。



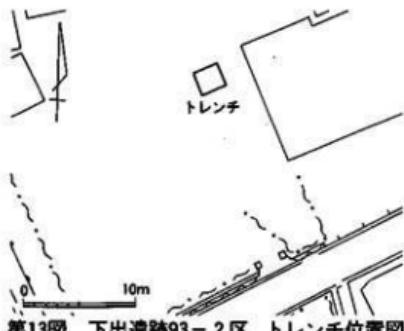
第11図 下出遺跡93-1区 出土遺物(1)

b. 遺物

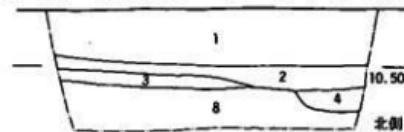
1は土師器小皿、2~4は土師質焙烙、5・6は土師質火鉢、7・8は備前焼搗鉢、9~11は染付で、9・10は碗、11は皿である。12は丸瓦で凸面は丁寧なナデ、凹面は糸切り痕がみられるが、磨滅が激しく布目压痕は観察できない。13は平瓦で凹面は布目压痕、凸面は離れ砂が密に付着し、繩目叩きは観察できない。両面とも糸切り痕がみられる。どちらも鎌倉時代のものである。



第12図 下出遺跡93-1区 出土遺物(2)



第13図 下出遺跡93-2区 トレンチ位置図



### 93-2区

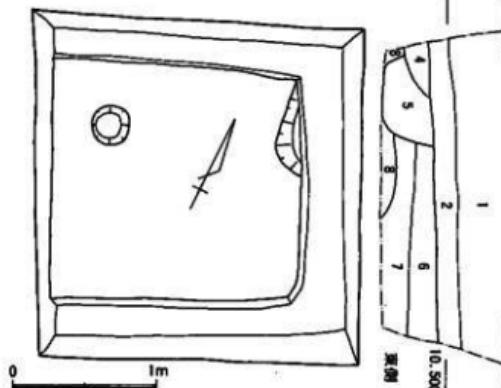
#### a. 調査の概要

調査区は、同遺跡の北端部に位置する。中世末期に織田信長によって整備したとされる「信長街道」に面している。調査は、調査区内に $2.4\text{m} \times 2.2\text{m}$ のトレンチを設定して行った。

近年の盛土以下の基本的な層序は、淡茶色土、濃茶黒色土、明褐黄色土の順であった。明褐黄色土層からは遺物が検出されておらず、無遺物層(地山)と考えられる。濃茶黒色土層から瓦器、瓦質土器、蛸壺等が検出されており、中世期の包含層と想定される。淡茶色土層からも土師質土器、蛸壺等が出土している。

#### b. 遺構

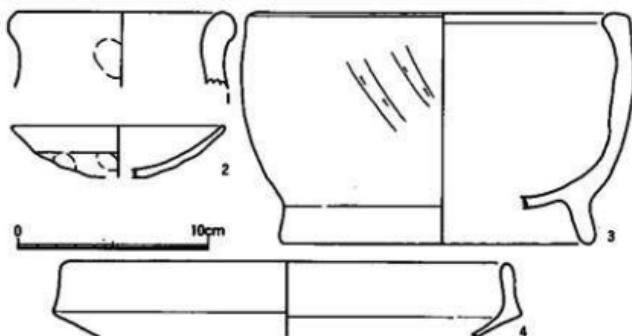
遺構としては、ピット1、土坑1が確認された。ピットからは土師質土器の小片が出土しているにすぎず、この遺物から年代の確定はできない。しかし、ピットの埋土が濃茶黒色土であったため、上述したように中世期のものと思われる。



第14図 下出遺跡93-2区 トレンチ平面図・断面図

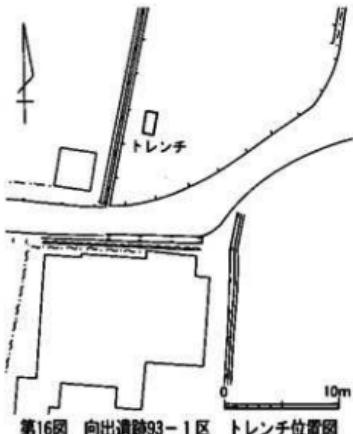
### c. 遺物

前述のような遺物が確認されている。1は土師質の鉢窓で、中世期のもの。2は瓦器焼である。3は炮烙、4は鉢で、いずれも近世期のもの。



第15図 下出遺跡93-2区 出土遺物

### 第3節 向出遺跡



第16図 向出遺跡93-1区 トレンチ位置図

向出遺跡は、男里川支流の菟延川と山中川に囲まれた段丘上に位置し、1988年の民間工事に伴う確認調査により周知された遺跡である。1988年の調査では、溝等の遺構を検出、黒色土器、土師質土器等の遺物が出土している。93-1区の調査では、土坑内から須恵器の壺の一部が、遺物包含層から須恵器、土師質土器、瓦器等の遺物が出土している。分布調査においては縄文時代後期と思われる土器やサヌカイト製石器等が採取されている。

#### 93-1区

##### a. 調査の概要

調査区は、向出遺跡の中央部に位置する。調査は $2\text{m} \times 1\text{m}$ のトレンチを設定し実施した。基本的層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡茶灰色礫混土、第4層明茶灰色礫混土の無遺物層である。遺構は検出されなかった。第3層から土師質管状土錐が出土した。



第17図 向出遺跡93-1区 トレンチ西側断面図



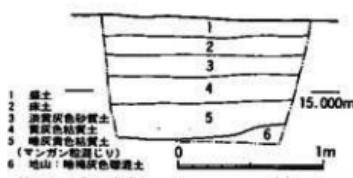
第18図 向出遺跡 調査区位置図

第19図 向出遺跡93-3区 トレーニング位置図

93-3区

## a. 調査の概要

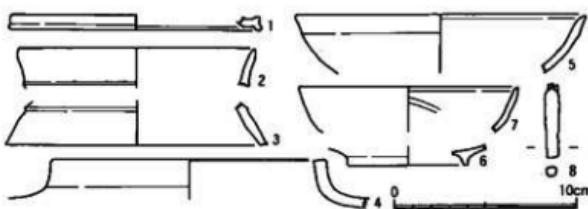
調査区は向出遺跡の北東部に位置する。調査は調査区内に $1.5\text{m} \times 1\text{m}$ のトレーニングを設定し実施した。基本的層序は、第1層盛土、第2層床土、第3層淡黃灰色砂質土、第4層黃灰色粘質土、第5層暗灰黃色粘質土、第6層暗褐灰色礫土の無遺物層である。遺構は検出されず、第3・5層から須恵器、土師質土器、サヌカイト片等が出土した。



第20図 向出遺跡93-3区 トレーニング南側断面図

## b. 遺物

ここで掲げている遺物は、第5層から出土したものである。1は須恵器の杯蓋の口縁部、2は須恵器の無蓋高杯の口縁部、3は須恵器高杯の脚部、4は須恵器の壺の口縁部である。5は土師質土器の壺の口縁部である。6・7は黒色土器で7はB類壺の口縁部で内側にヘラミガキが見られ、6はA類壺の高台と思われる。8は釘状鉄製品である。



第21図 向出遺跡93-3区 出土遺物  
の脚部、4は須恵器の壺の口縁部である。5は土師質土器の壺の口縁部である。6・7は黒色土器で7はB類壺の口縁部で内側にヘラミガキが見られ、6はA類壺の高台と思われる。8は釘状鉄製品である。



第22図 自然田遺跡 調査区位置図



第23図 自然田遺跡93-1区 トレンチ位置図

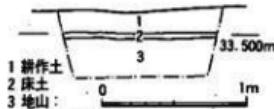
#### 第4節 自然田遺跡

自然田遺跡は1986年の民間開発工事に先立つ確認調査で発見、周知された。過去の調査ではサヌカイトのナイフ型石器や中世期の溝や流路、近世期の溝などが検出されている。また遺跡の南側には大阪府指定史跡の玉田山古墳群（後期）が存在する。

##### 93-1区

###### a. 調査の概要

調査区は、自然田遺跡の北部に位置している。調査区は、調査区内に $1.2m \times 1.2m$ のトレンチを1ヵ所設定して実施した。基本的層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層淡橙黄色礫混土である。遺構は検出されなかった。第1・2層より土師質土錘、製塙土器が各1点出土したが固化し得るものはなかった。



#### 第5節 和泉鳥取遺跡

和泉鳥取遺跡は、市内の東端部に位置し、男里川支流の山中川右岸に拡がる。1990年に道路改修工事中に弥生時代中期の壺、瓦器塊等が発見され、周知された。この時の調査は小規模なもので、上述した物以外の遺物、遺構は確認されなかった。また、これ以降についても、遺跡内での調査は皆無に等しく、遺跡の性格等を把握するまでには至っていない。

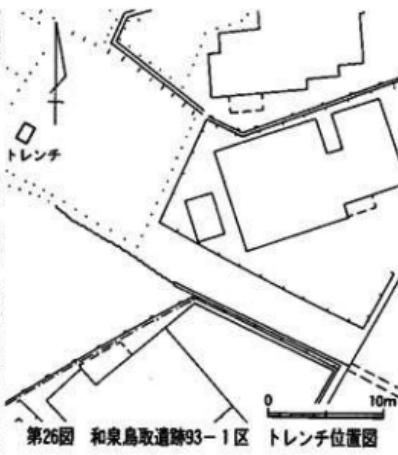
##### 93-1区

###### a. 調査の概要

本調査区は、和泉鳥取遺跡の南西端部に位置する。調査区内に $1.5m \times 1.5m$ およ



第25図 和泉鳥取遺跡 調査区位置図



第26図 和泉鳥取遺跡93-1区 トレンチ位置図



第27図 和泉鳥取遺跡93-1区 1・2トレンチ断面図



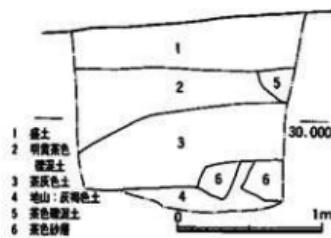
第28図 神光寺(蓮池)遺跡 調査区位置図

び1.5m×1mのトレンチを設定して調査を実施した。耕作土、床土以下の基本的な層序は、灰茶色土、明灰黄色土、褐色粘土（無遺物層）であった。いずれのトレンチからも遺構は検出されなかった。明灰黄色土層から白土器をはじめ、小型の軒丸瓦等が確認されているが、いずれも小片で図化するには至らなかった。

## 第6節 神光寺(蓮池)遺跡

神光寺(蓮池)遺跡は、阪南市の東西に拡がる平野部のほぼ中央部に位置する。有茎尖頭器が採取され、神光寺が付近に明治初年の排仏楽釀まで存在していたとされていることから、縄文時代草創期～近世期の遺跡として知られている。この他、弥生時代中期の方形周溝墓や流路が確認され、これらに

ともなって同時期の土器も出土している。



第29図 神光寺(蓮池)遺跡93-1区 トレンチ東側断面図

### 93-1区

#### a. 調査の概要

調査区は神光寺(蓮池)遺跡の南西端部に位置する。調査は、調査区内に  $2\text{m} \times 1\text{m}$  のトレチを設定して行った。

近年の盛土以下の基本的な層序は、明黄茶色礫混土、茶灰色土、灰褐色土の順であった。遺構は検出されなかった。明黄茶色礫混土層から近世期以降のものと思われる瓦、近代期の陶磁器が出土している。



第30図 鳥取北遺跡 調査区位置図

する。調査は、 $1.5\text{m} \times 1\text{m}$  のトレチを設定し実施した。基本層序は、第1層耕作土、第2層褐灰黄色土、第3層明黄灰色粘土の無遺物層である。遺構は検出されなかつたが、第2層から瓦や土師質竈壺等を検出した。

### 第7節 鳥取北遺跡

鳥取北遺跡は阪南市のはば中央部に位置する。1988年実施された分布調査により周知された遺跡である。1992年度に遺跡内で初めて行われた調査では、中世期の遺物包含層と幅 $0.8\text{m}$ 以上、深さ $0.08\text{m}$ の東西溝を検出した。

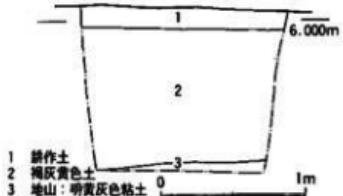
### 93-1区

#### a. 調査の概要

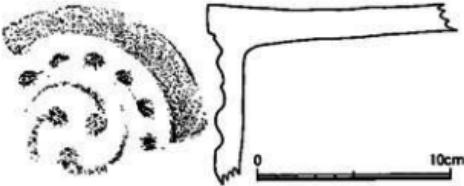
調査区は、鳥取北遺跡の北部に位置



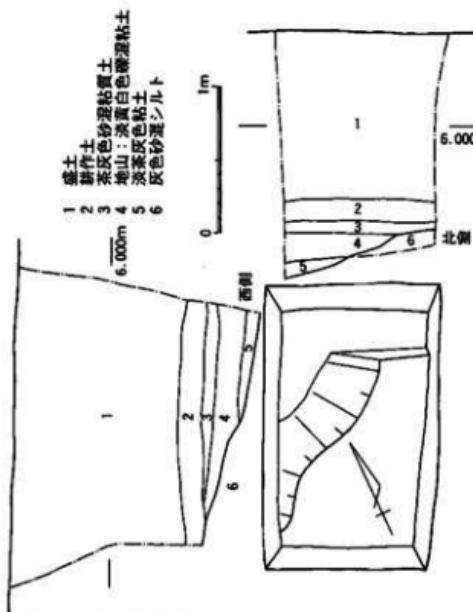
第31図 鳥取北遺跡93-1区 トレンチ位置図



第32図 鳥取北遺跡93-1区 レンチ北側断面図



第33図 鳥取北遺跡93-1区 出土遺物



第34図 鳥取北遺跡93-3区 レンチ平面図・断面図

ある。第4層上面で土坑と思われる遺構の一部を検出した。土坑の埋土は上層が淡茶灰色粘土、下層が灰色砂混シルトである。埋土より土師質鉢甌が1点出土した。

その他の遺物は耕作土より土師質管状土器、磁器が各1点出土したが、固化し得るものはなかった。

#### b. 遺物

1は軒丸瓦で巴文や珠文の形態から室町時代のものと思われる。

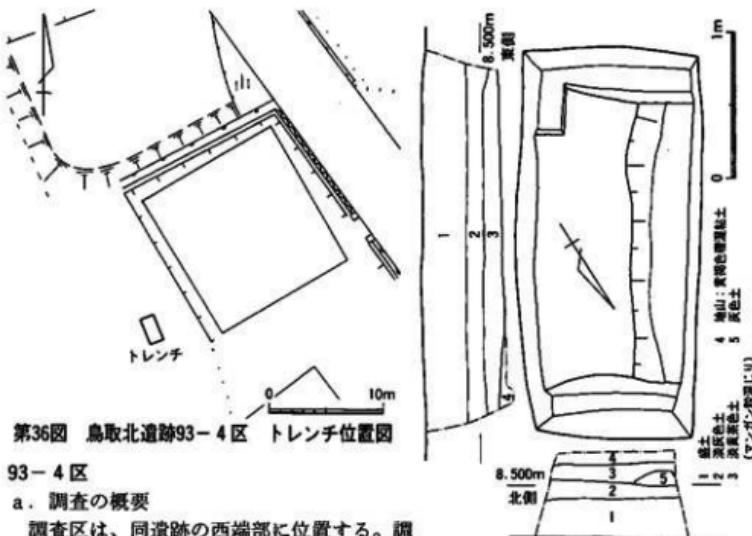
#### 93-3区

##### a. 調査の概要

調査区は、鳥取北遺跡の北東部で、92-1区の北約200mに位置している。調査は、調査区内に2m×1.2mのレンチを1ヵ所設定して実施した。基本的層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層茶灰色砂混粘質土、第4層淡黄色砂混粘土（無遺物層）で



第35図 鳥取北遺跡93-3区 レンチ位置図



第36図 島取北遺跡93-4区 トレンチ位置図

### 93-4区

#### a. 調査の概要

調査区は、同遺跡の西端部に位置する。調査区内に $2.5\text{m} \times 1.2\text{m}$ のトレンチを設定して調査を実施した。盛土以下の基本的な層序は、淡灰色土、淡黄茶色土、黄褐色疊粘土（無遺物層）であった。遺構は下記のとおり、溝が確認された。淡灰色土及び淡黄茶色土層から須恵器、土師質管状土錐が出土しているが、細片のため図化していない。管状土錐は比較的大型の部類に属するものである。

#### b. 遺構

淡黄茶色土層上面で溝2を検出したが、顯著な遺物が包含されておらず、時代については明らかではない。

##### —溝1—

東西方向の溝をトレンチの南端部で確認した。幅 $0.23\text{m}$ 以上、確認面からの深さ $0.05\text{m}$ を呈する。埋土は、第2層淡灰色土であった。

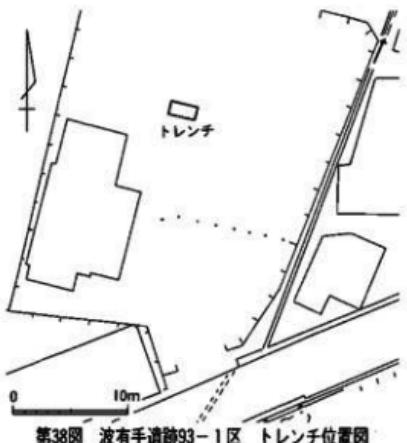
##### —溝2—

南北方向に伸びる。幅 $0.43\text{m}$ 以上、確認面からの深さ $0.10\text{m}$ を呈する。溝1に切られている。

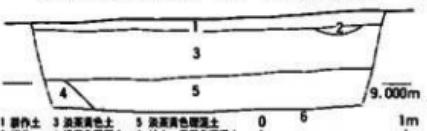
## 第8節 波有手遺跡

波有手遺跡は1992年度西鳥取公民館建設（92-1区）に伴う遺跡確認調査によって新たに発見された遺跡である。

基本的層序は耕作土、3層の包含層、地山で、第1包含層上面で2棟の建物と東西溝1を検出した。柱穴より須恵器、丸瓦、磁器、漆喰が出土し、近世期のものと思われる。第3層包含層上面では溝6、土坑10を検出した。中世期のものと考えら



第38図 波有手跡93-1区 トレーナ位置図

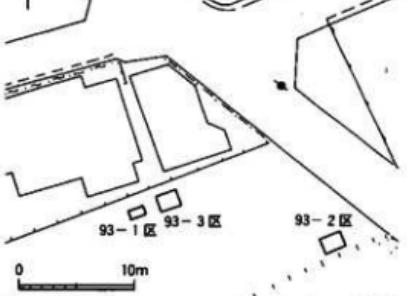


第39図 波有手跡93-1区 トレーナ南側断面図

## 第9節 鳥取遺跡

鳥取遺跡は、市域の東西に拡がる平野部の中央部に位置する。1988年度に実施された分布調査により周知された遺跡である。往年の調査では、土師質土器、瓦質土器などが出土しているが、遺跡の性格を明確にするような遺構、遺物は検出されていない。今後の調査に期待がもたれよう。

今年度に調査した93-1区、93-2区、93-3区は互いに隣接する。



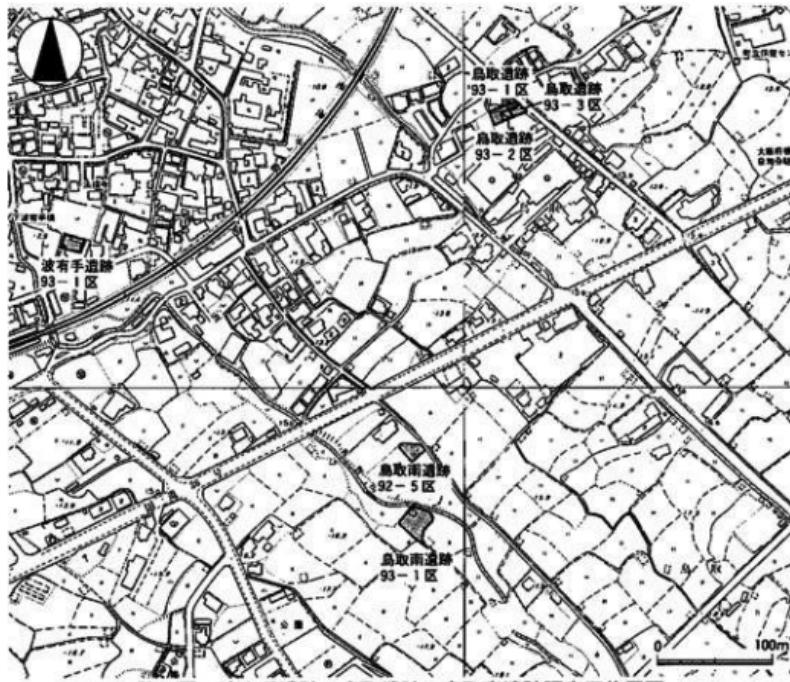
第40図 鳥取遺跡93-1・93-2・93-3区 トレーナ位置図

れる。地山上面では東西溝1、土坑1から、奈良時代の土師器、須恵器を多数出土した。中でも「海」「水」「省」「佐土」と記された墨書き土器が30点以上出土していることは特筆すべきものである。

### 93-1区

#### a. 調査の概要

今回の調査区は波有手遺跡発見後初めての調査で、先述した92-1区の南側に隣接する。調査は、調査区内に2m×1mのトレーナを設定して実施した。基本的層序は、第1層耕作土、第2層淡茶黄色土、第3層淡茶色砾混土、第4層黄茶色砾混土（無遺物層）である。第3層上面で土坑1を検出した。埋土は淡茶黄色砾混土である。遺物は出土しなかった。



第41図 波有手遺跡・鳥取遺跡・鳥取南遺跡調査区位置図

である。遺構は検出されず、遺物は第3層から土師質土器、瓦器、第4層から須恵器、土師質土器、瓦器、瓦質土器が出土したが、どれも細片のため図化し得なかった。

#### 93-2区

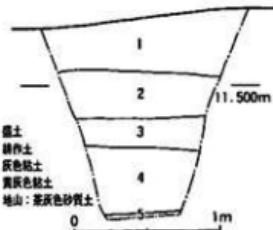
##### a. 調査の概要

調査区は93-1区に隣接する。調査は、調査区内に約2m×1.5mのトレンチを設定して実施した。

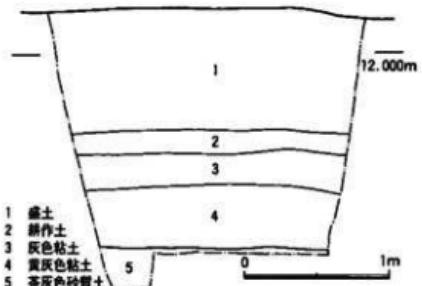
基本的層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層灰色粘土、第4層黄灰色粘土、第5層茶灰色砂質土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第3層から土師質土器、第4層土師質土器、婧壺、磁器を出土した。

##### b. 遺物

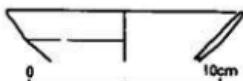
第3層から出土した瓦器碗の口縁部で、二次焼成を受けている。



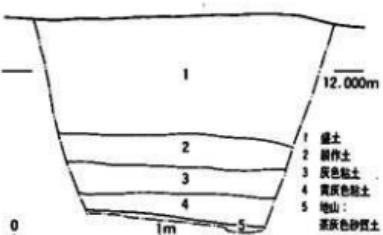
第42図 鳥取道跡93-1区 トレンチ北側断面図



第43図 鳥取遺跡93-2区 トレンチ南側断面図



第44図 鳥取遺跡93-2区 出土遺物



第45図 鳥取遺跡93-3区 トレンチ北側断面図

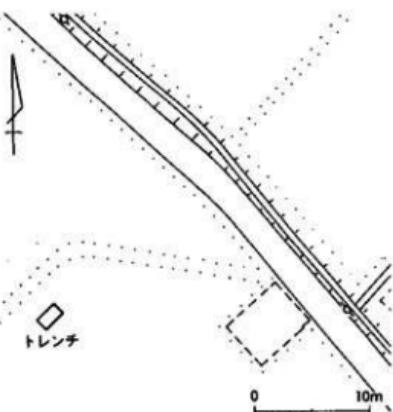
### 93-3区

#### a. 調査の概要

調査区は93-1区・93-2区に隣接する。調査は、調査区内に約2m×1.5mのトレンチを設定して実施した。基本的層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層灰色粘土、第4層黄灰色粘土、第5層茶灰色砂質土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第4層から土師質土器数点が出土したが、どれも細片のため図化し得なかつた。

## 第10節 鳥取南遺跡

鳥取南遺跡は、1988年に実施された分布調査により周知された遺跡である。既往の調査では、遺跡東端部において弥生時代後期の土坑等が確認されている。また、遺跡の中央部における調査では、諸般の事情により調査の中止を余儀なくさせられたが、1次調査の段階で、ピット、土坑、古墳時代～中世の遺物が確認されていた。この遺構の時代等詳細については、調査中断という異常な事態のため明らかではない。

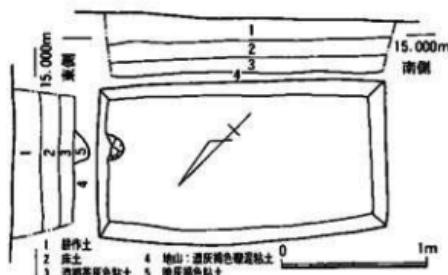


第46図 鳥取南遺跡92-5区 トレンチ位置図

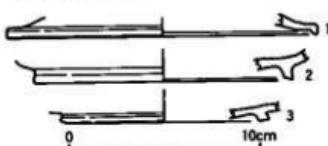
### 92-5区

#### a. 調査の概要

調査地は、鳥取南遺跡のほぼ中央に位置する。調査は調査区内に2m×1mのトレンチを1ヵ所設定して実施し



第47図 鳥取南遺跡92-5区 トレンチ平面図・断面図

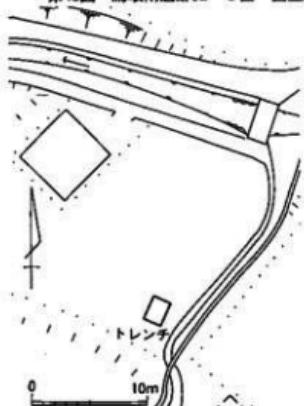


1～3はいずれも第2層から出土した奈良時代の須恵器である。1は壺蓋の口縁部、2・3は壺身の底部である。

第48図 鳥取南遺跡92-5区 出土遺物

#### a. 調査の概要

調査区は、鳥取南遺跡のはば中央部に位置する。調査区内に  $2\text{m} \times 1.6\text{m}$  のトレンチを設定し実施した。基本的層序は第1層は盛土、第2層耕作土、第3層濃褐茶灰色粘土、第4層濃灰褐色粘土の無遺物層である。遺構は土坑を検出した。遺物は第3層から須恵器と土師質土器が出土した。

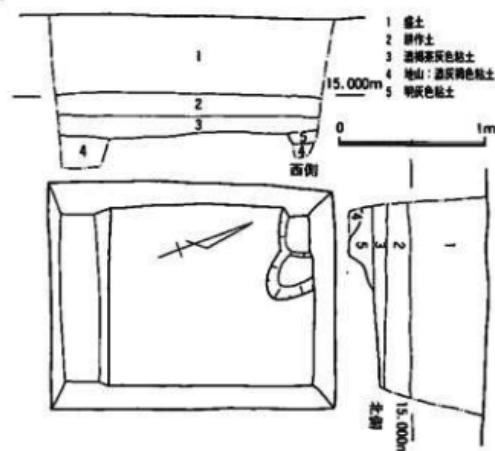


第49図 鳥取南遺跡93-1区 トレンチ位置図

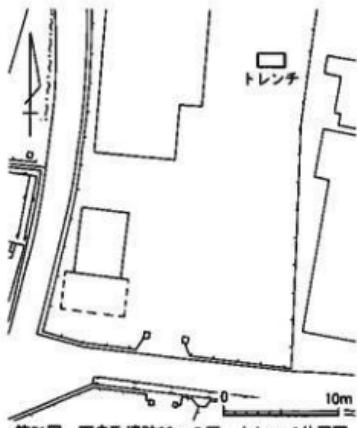
#### b. 遺構

##### —土坑—

第4層上面で検出された。径0.6m以上、深さ0.16m以上を呈する。埋土は明灰色粘土で、遺物は含まれていなかった。



第50図 鳥取南遺跡93-1区 トレンチ平面図・断面図



第51図 西鳥取遺跡93-2区 トレンチ位置図

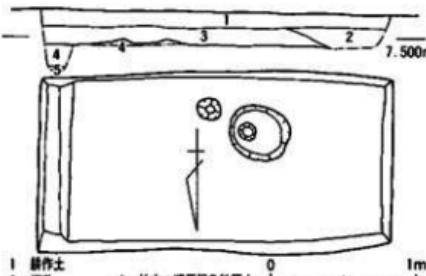
## 第11節 西鳥取遺跡

西鳥取遺跡は、市域の北端部に位置する。1988年に周知されて以来数件の調査が実施されている。しかし、そのすべてが小規模な調査ばかりであり、須恵器、土師器をはじめとする遺物は出土しているものの、遺構は1カ所で確認されているにすぎない。

### 93-2区

#### a. 調査の概要

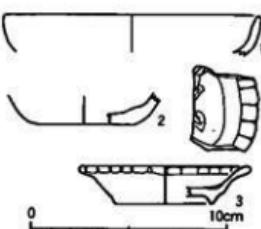
調査区は、同遺跡の北部に位置する。調査区内に2.5m×1.2mのトレンチを設定して調査を実施した。耕作土以下の基本的な層序は、茶褐色粘質土、明灰褐色粘質土（無遺物層）であった。茶褐色粘質土層から土師質土器、須恵器、瓦器が出土している。遺構としては、ピットを確認した。



第53図 西鳥取遺跡93-2区 トレンチ平面図・南側断面図



第52図 西鳥取遺跡・戎遺跡調査区位置図



第54図 西鳥取遺跡93-2区 出土遺物

#### b. 遺構

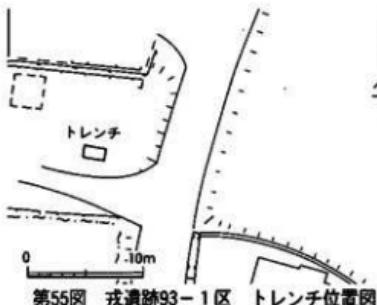
明灰褐色粘質土層上面でピット2を検出した。うちのひとつは、柱痕が確認され、トレンチ外にのびる建物跡が存在することも想定される。土師質土器の細片が埋土から出土している。

#### c. 遺物

1・2は須恵器、3は磁器皿である。1・2は茶褐色粘質土層から、3は耕作土からの出土である。

## 第12節 戻遺跡

戻遺跡は、本市の北部に位置する。これまで、個人住宅の建設等に伴い数件の調査が行われている。そのいずれもが小規模なものであるため、遺跡の性格等を把握するまでには至っていない。しかし、調査されたそれぞれの地点では、遺構の確認にまでいたらないまでも、遺物が出土し、遺物包含層の存在も確認されている。

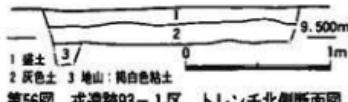


第55図 戻遺跡93-1区 トレンチ位置図

#### 93-1区

##### a. 調査の概要

本調査区は、戻遺跡の南端部に位置する。調査区内に2m×1mのトレンチを設定して調査を実施した。近年の盛土層以下の層序は、灰色土、褐白色粘土（無遺物層）であった。遺構は検出されなかった。灰色土層から瓦、陶磁器片が出土したが、いずれも細片のため図化し得なかった。



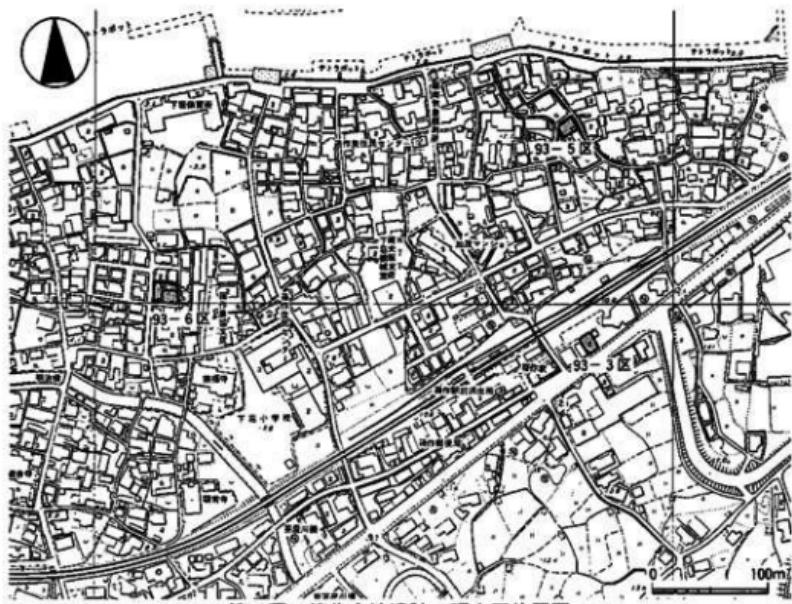
第56図 戻遺跡93-1区 トレンチ北側断面図



第57図 戻遺跡93-1区 出土遺物

## 第13節 箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は、市域の北西部に位置し、茶屋川とその支流飯ノ峯川が形成する扇状地に拡がる。海岸線部における遺跡の範囲は、現在の箱作の集落とほぼ一致する。既往の調査では、海岸線部の現在の箱作集落付近からは、主に中世期のものが、現在の国道以南の山側では、古墳時代～古代末期頃の遺構、遺物が確認されている。なお、現在この箱作今池遺跡は、阪南市が進める土地区画整理事業に伴い、その公共用地部分について（財）大阪府埋蔵文化財協会により発掘調査が実施されている。



第58図 箱作今池遺跡 調査区位置図

### 93-3区

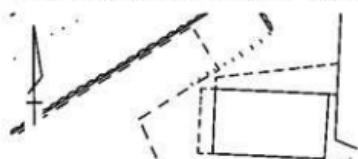
#### a. 調査の概要

本調査区は箱作今池遺跡のほぼ中央部に位置する。調査区内に $1.5m \times 1.2m$ のトレンチを設定して調査を実施した。盛土以下の基本的な層序は、灰茶色土、明茶灰色土、暗灰色粘質土、黄色粘土（無遺物層）であった。遺構は溝を検出した。遺物は検出されなかった。

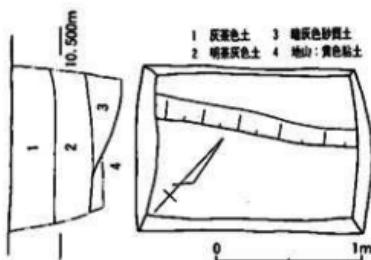
#### b. 遺構

##### -溝1-

トレンチの北側部分で東西方向にのびる溝を確認した。幅0.25m以上、確認面から



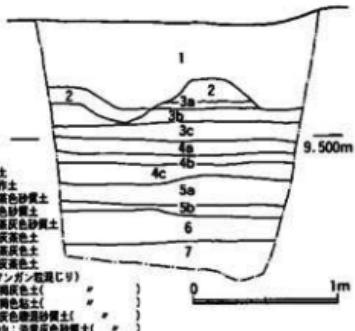
第59図 箱作今池遺跡93-3区 トレンチ位置図



第60図 箱作今池遺跡93-3区 トレンチ平面図・西側断面図



第61図 箱作今池遺跡93-5区 トレンチ位置図  
の深さ0.07m以上を呈する。



第62図 箱作今池遺跡93-5区 トレンチ北側断面図

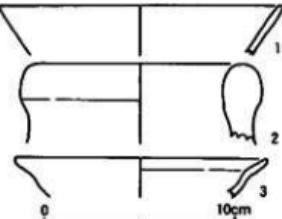
### 93-5区

#### a. 調査の概要

調査区は箱作今池遺跡の北端部で、大阪湾より十数m内陸部に位置する。調査は調査区の北東部に  $2\text{m} \times 1.5\text{m}$  の調査区を設定して行った。基本的層序は盛土、耕作土、遺物包含層、無遺物層（地山）である。遺構は検出されなかった。出土遺物は第3～5層より土師器、土師質鉢壺、磁器、須恵質捏鉢、中国製青磁、第6～8層より土師器、土師質鉢壺、瓦質鉢、中国製青磁、スサ入り焼土塊、第9・10層より土師器、須恵器、土師質鉢壺・小皿、第11層より土師器壺、土師質鉢壺、サヌカイト、スサ入り焼土塊などである。

#### b. 遺物

1は奈良時代の須恵器坏身、2は中世の土師質鉢壺でどちらも第9・10層より出土した。3は第3～5層出土の青磁碗で中国製と思われる。



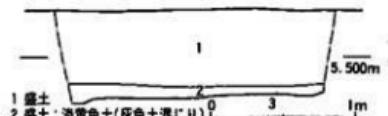
第63図 箱作今池遺跡93-5区 出土遺物

### 93-6区

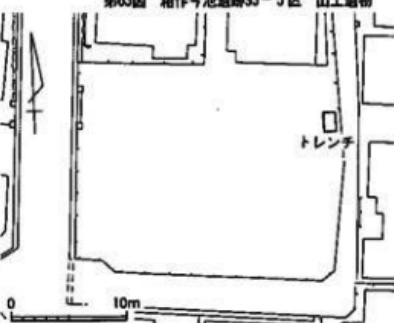
#### a. 調査の概要

調査区は箱作今池遺跡の北西部に位置する。

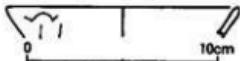
調査は調査区の北東部に  $2\text{m} \times 1\text{m}$  のトレンチを設定して実施した。基本的



第65図 箱作今池遺跡93-6区 トレンチ西側断面図



第66図 箱作今池遺跡93-6区 トレンチ位置図



第66図 箱作今池遺跡93-6区 出土遺物

層序は、盛土が厚さ0.7m、その直下が淡黄色礫混土の無遺物層であった。遺構は検出されなかった。

b. 遺物

調査区内から、15世紀半ばの蓮弁文青磁碗を1点のみ検出した。

## 第14節 田山東遺跡

田山東遺跡は阪南市の西北部に拡がる中世期を中心とした遺跡である。1988年度に実施された文化財分布調査によって周知された。

### 92-1区

#### a. 調査の概要



第67図 田山東遺跡 調査区位置図

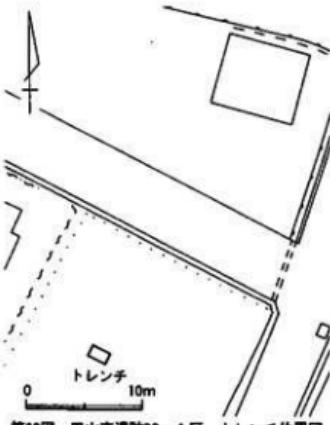
調査区は、田山東遺跡の東端で、加茂神社の南西に位置する。調査は調査区内に2m×1mのトレンチを1カ所設定して実施した。

基本的な層序は、第1層耕作土、第2層灰黄色粘土（無遺物層）である。

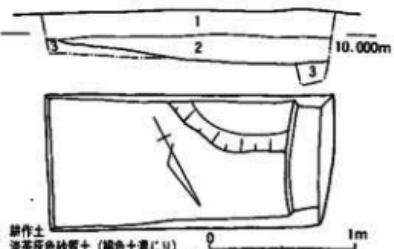
#### b. 遺構

##### -土坑-

第2層上面で土坑の一部が検出された。埋土は淡茶灰色砂質土で近世の磁器が1片出土した。



第68図 田山東遺跡92-1区 トレンチ位置図



第69図 田山東遺跡92-1区 トレンチ平面図・南側断面図

## 第15節 田山遺跡

田山遺跡は、市域の北西部の海岸部に位置する。往年の調査では、奈良時代の掘立柱建物をはじめ、中世期の船壺焼成遺構等の様々な遺構が検出されている。また、縄文時代の石器をはじめ、近世期の陶磁器に至るまで様々な遺物が出土している。なかでも、中国産の青磁や白磁碗等が比較的多く出土しており、当時中国との貿易に何らかの関係があったことが推定されている。



第70図 田山遺跡 調査区位置図

### 93-1区

#### a. 調査の概要

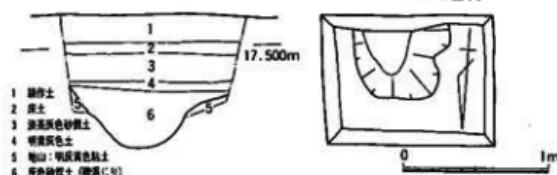
調査区は、田山遺跡の中央部に位置する。調査区に約 $1.2 \times 1.2\text{m}$ のトレーニングを設定した。基本的層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層淡茶灰色砂質土、第4層明黄灰色土、第5層明灰黄色粘土の無遺物層である。遺構は、土坑を検出した。遺物は第2～4層より須恵器、土師質土器が出土した。

#### b. 遺構

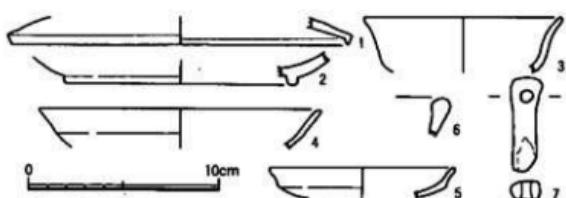
##### 一土坑一

トレーニングの南部の第5層上面で検出した。径 $1.2\text{m}$ 以上、深さ $0.4\text{m}$ を呈する。埋土は灰色砂質土で、奈良時代の須恵器や土師質土器が出土した。

#### c. 遺物

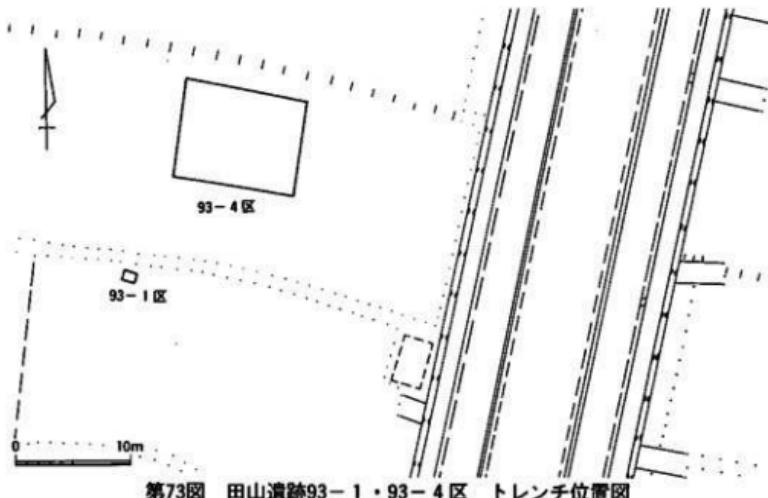


第71図 田山遺跡93-1区 トレーニング平面図・南側断面図



第72図 田山遺跡93-1区 出土遺物

1は須恵器の坏蓋で、土坑から出土した。2・3は、須恵器坏身の高台と口縁部。4および5は瓦器の塊、小皿。6は土師質土器の口縁部で製塩土器である。7は土師質有孔土錐である。2・4・5・7は第3層から、3・6は第4層から出土している。



第73図 田山遺跡93-1・93-4区 トレンチ位置図

### 93-4区

#### a. 調査の概要

調査区は田山遺跡の中央部に位置している。調査は調査区の中央部に10m×8mのトレンチを設定して実施した。基本的層序は第75図のとおりである。第1層が耕作土、第2・3層が遺物包含層、第4層が無遺物層であった。

#### b. 遺構

##### 一溝1-

幅0.6m、深さ0.18mの溝で、トレンチ中央部を東西方向にやや西へ傾斜して伸びる。埋土は、紫色土で小礫を含み固くしまっていた。須恵器、土師器を検出した。

##### 一建物1-

P(ピット)1～9は、径0.33～0.58mで深さ0.15～0.50mの掘り方を有する。柱痕は、P1～3・5・6・8で確認された。遺物はP7・8から土師器壺を検出した。東西2間×南北2間以上の建物と想定される。

##### 一建物2-

P10～12は、径0.30～0.50mで深さ0.16～0.33mの掘り方を有する。柱痕は、P10・12で確認された。遺物はP12から土師器壺を検出した。北へ伸びる建物と想定される。

##### 一建物3-

P13～15は、径0.21～0.31mで深さ0.05～0.16mの掘り方を有する。柱痕は認められなかった。西部を後世に削平されている可能性が考えられる。

##### 一その他のピット-

この他、並ばないと思われるピット(P16～20)を検出した。径は0.35～0.50m、掘り方の深さは0.16～0.33mを呈する。P17からは土師器壺が、P16・18からは土

師器の細片が検出された。

-土坑1-

2.60m以上×2.10mで深さは0.12mである。埋土は灰色土で、須恵器、土師器、瓦器を検出した。

-土坑2-

2.50m×1.60mで深さは0.12mである。埋土は灰色土で、須恵器、土師器、瓦器を検出した。

-落ち込み1-

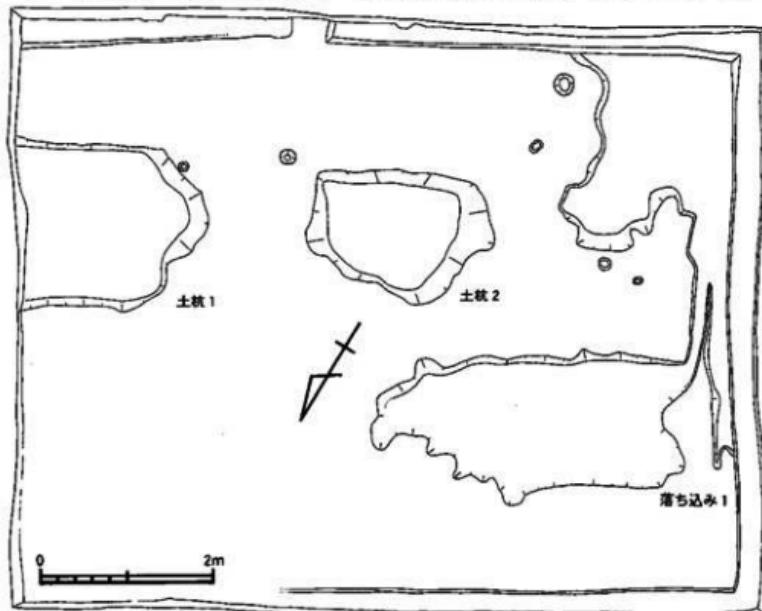
埋土は灰色砂質土で拳大の礫を含み、須恵器・土師器・瓦器を検出した。

以上の遺構のうち、溝1及びP1～20の埋土は紫色系で、検出された遺物の下限は、奈良時代であった。以上より、上記の遺構は奈良時代のものと想定される。また、土坑1・2及び落ち込み1については、検出された遺物は、下限を中世期に持つので同時期の遺構であると想定できる。P19・20以外の遺物が検出されなかったピットは、土坑1等と同色の埋土なので同じ中世期と想定される。なお、奈良時代のものと想定しているピットより検出された遺物は図化しがたく写真に依った。

c. 遺物

-溝1出土-

1～5は須恵器の杯蓋である。6～14は須恵器杯身の口縁部・底部である。15は



第74図 田山遺跡93-4区 第1遺構確認面（3層上面）

須恵器壺の口縁部である。16は土師器皿である。17は土師器高壺の脚部である。

-土坑1-

18は須恵器壺身の底部である。19は須恵器長頸壺の頸部である。20・21は瓦器壺の口縁部・高台部である。

-落ち込み1-

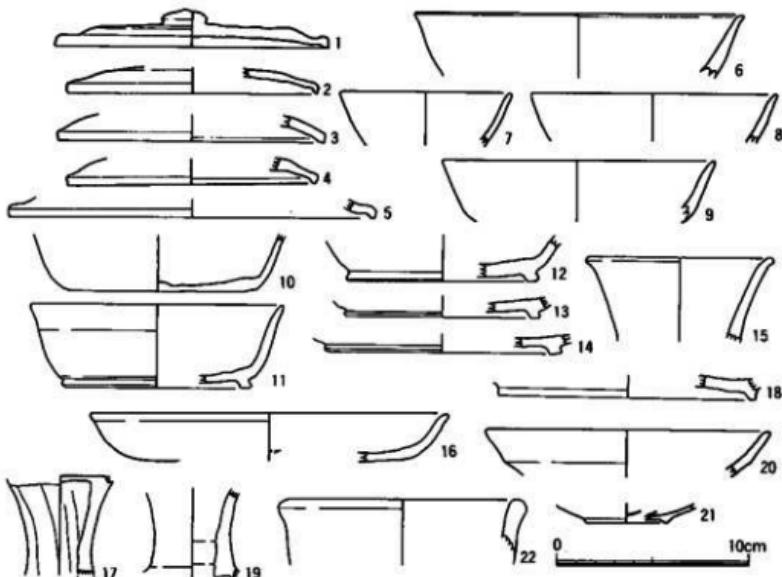
22は製塙土器口縁部である。

-第3層-

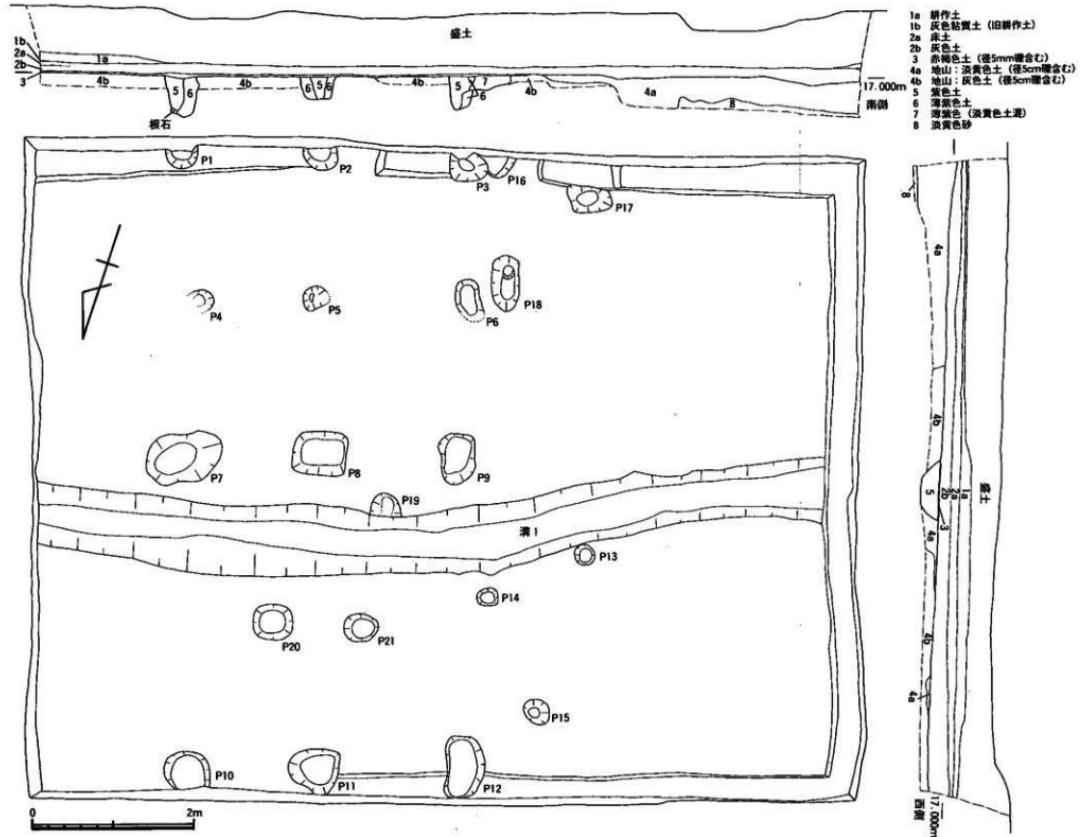
23~25は須恵器の壺蓋、26~29は壺身である。30・31は土師器皿である。33は製塙土器の口縁部である。34は瓦器壺の高台部である。35は土師質管状土錐である。

-第2層-

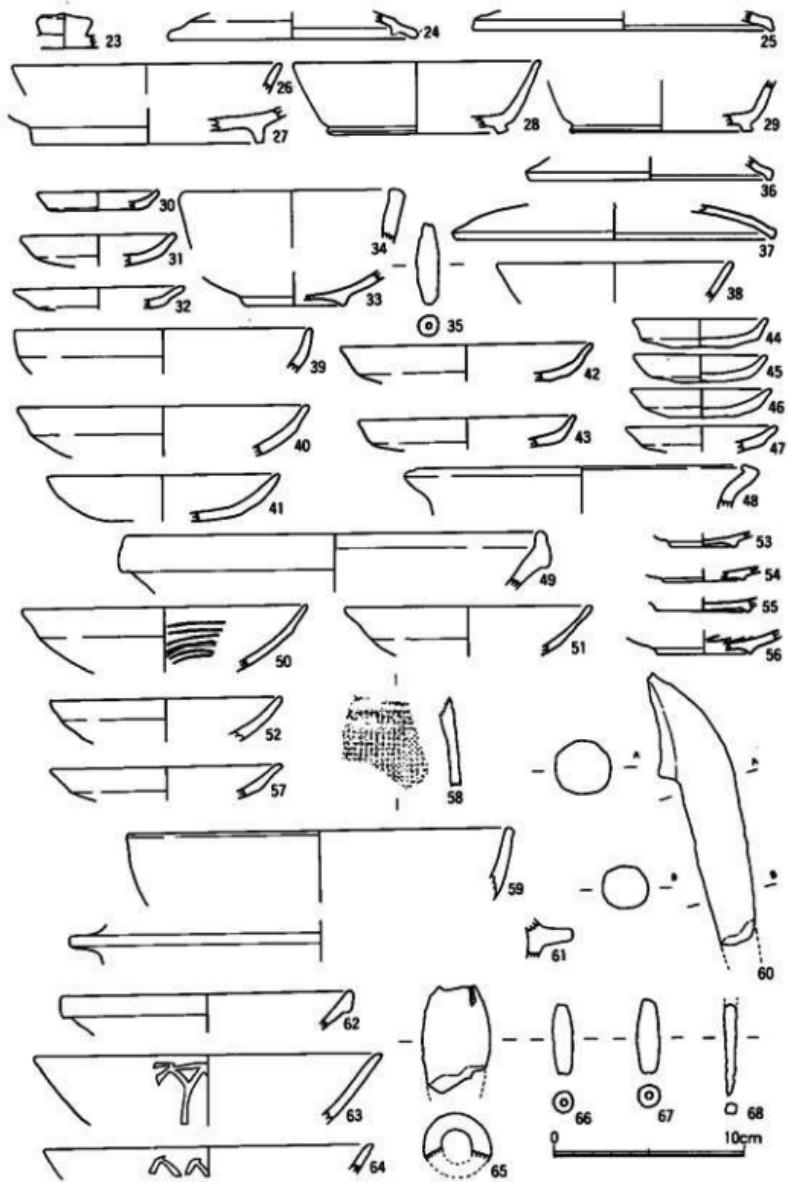
36~38は須恵器の壺蓋・壺身である。39~47は土師器の壺と皿である。48は土師質の甕口縁部である。49は須恵器捏鉢の口縁部で束縛系である。50~55は瓦器壺の口縁部・高台部である。56・57は瓦器皿である。58は焼きのあまい格子目叩きの施された、亀山焼系甕くびれ直下部である。59瓦質鉢の口縁部である。60は瓦質三足羽釜の脚部である。61は土師質羽釜の鋲部である。62は白磁碗の口縁部である。63・64は13世紀後半~14世紀前半の蓮弁文青磁碗の口縁部である。65~67は土師質管状土錐である。なかでも65は最大径4cm程の比較的大振りなものである。68は鉄釘先端部である。



第76図 田山遺跡93-4区 溝1・3及び土坑1出土遺物



第75図 田山遺跡93-4区 第2遺構確認面（4層上面）



第77圖 田山遺跡93-4区 第2・3層出土遺物

## 第4章 まとめ

以上、今年度の国庫補助事業に伴う調査の概要を報告した。そのほとんどが小規模な調査であったが、以下に今年度の成果を若干まとめてみることにする。

下出遺跡については、今年度の調査区（93-1区、93-2区）の南方100m付近の調査で、中世期の墳墓と思われる遺構や当時の遺物が検出されていたが、その調査区で知られていた遺物包含層が下出遺跡の北端部に位置する93-2区でも確認された。このことは、同遺跡の範囲がさらに北方に拡がる可能性を示している。

馬川遺跡では、遺跡の西側部分における今年度の調査でも中世期の瓦が出土し、同時期の寺院もしくはそれ相当の建物の存在の可能性を強めることとなつた。また、92-5区、92-6区に近接する場所で、今年度国庫補助事業以外に実施された立会調査においては、鎌倉時代と室町時代頃のものとみられる巴文軒丸瓦、鎌倉時代以前のものと思われるヘラ描文の軒平瓦、室町時代の連珠文軒平瓦が、確認されている。これらのこととは、上述の可能性をさらに強める資料となつてゐる。この下出地区には、以前「薬師堂」が存在していたとの伝承が残り、この「薬師堂」との関連性も想定される。

さて、田山遺跡については、今年度の調査のうちで最も調査面積の広かった93-4区では、第3章で述べたとおり、奈良時代の溝をはじめ、中世期以前の建物跡、中世期の土坑等が確認された。遺構、遺物だけをとらえてみれば、1983年に（財）大阪文化財センターによって行われた調査成果と遜色はない。しかし、当時の調査時にも想定されていたように、田山川の段丘上に立地する集落跡等の拡がりが、段丘縁辺部付近までおよぶ可能性をさらに強くしたものとなつた。

以上、簡単に今年度の調査から特筆すべき点を取り上げた。小規模な調査ばかりではあったが、それなりの成果があったと考えている。

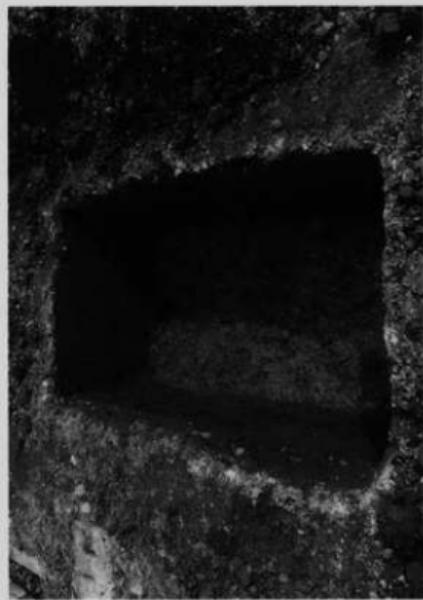
最後に、行政の行う発掘調査について若干触れてみたい。私たち行政の調査は、土木工事によって破壊される埋蔵文化財の発掘調査を行い、「記録保存」している。これは、破壊を受ける部分の調査を原則としている。「重要だから」だとか「貴重だから」という理由で調査を行っているのではない。破壊されるから調査を行っているのである。破壊を受ける部分の調査は、最低限であるが、必ず行わなければならぬはずである。この調査は、「学術調査」でもなく、「個人の趣味」のための調査ではないのである。文化財を文化財保護法のもとに保護していくのは、私たち行政を行うものの務めである。また、当然のことながら「政治上、行政上の判断」という名目で、十分な調査を行わずして公共工事を優先させてはならない。文化財を保護するのも行政なのである。文化財保護の担当する部局は、文化財を保護する立場にたって「行政」を行っていくべきである。私たち埋蔵文化財をはじめとする様々な文化財の調査等を直接担当する職員も、この「行政」を真摯に受け取り、最大の成果をあげる調査を最低限の範囲から最少限の時間と費用で行う努力も必要ではないだろうか。行政を重視する側も、調査担当者もこうしたことを念頭において、行政処理や調査にのぞむべきではないかと考える。



馬川遺跡92-6区 トレンチ全景(西より)



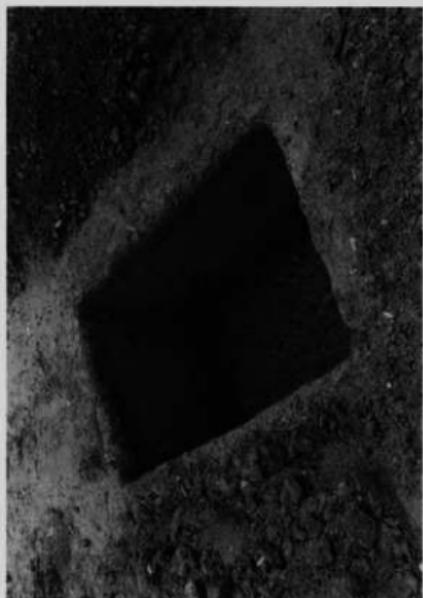
下出遺跡93-2区 トレンチ全景(北より)



馬川遺跡92-5区 トレンチ全景(西より)



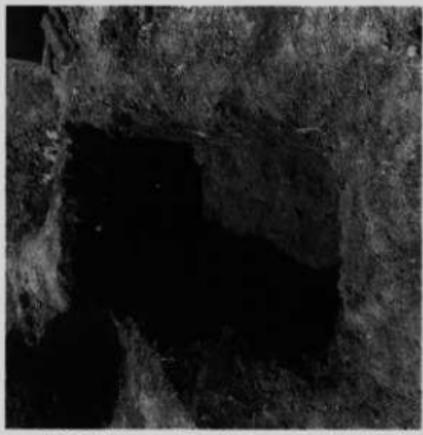
下出遺跡93-1区 トレンチ全景(南より)



向出遺跡93-3区 トレンチ全景(西より)



神光寺(蓮池)遺跡93-1区 トレンチ全景(東より)



向出遺跡93-1区 トレンチ全景(北より)



自然田遺跡93-1区 トレンチ全景(南より)



和泉鳥取遺跡93-1区 2 トレンチ全景(西より)



鳥取北遺跡93-3区 トレンチ全景(南より)



和泉鳥取遺跡93-1区 1 トレンチ全景(北より)



鳥取北遺跡93-1区 トレンチ全景(南より)



波有手遺跡93-1区 トレンチ全景(西より)



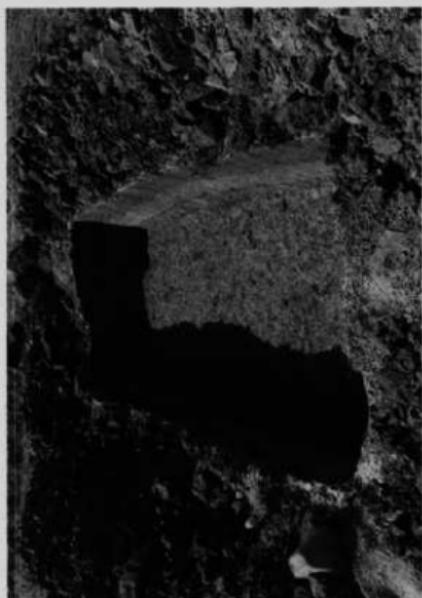
鳥取遺跡93-2区 トレンチ全景(北より)



鳥取北遺跡93-4区 トレンチ全景(北東より)



鳥取遺跡93-1区 トレンチ全景(東より)



鳥取南遺跡93-5区 トレンチ全景(東より)



西鳥取遺跡93-2区 トレンチ全景(北東より)



鳥取遺跡93-3区 トレンチ全景(南より)



鳥取南遺跡93-1区 トレンチ全景(南より)



箱作今池遺跡93-3区 トレンチ全景(東より)



箱作今池遺跡93-6区 トレンチ全景(南より)



戎遺跡93-1区 トレンチ全景(北より)



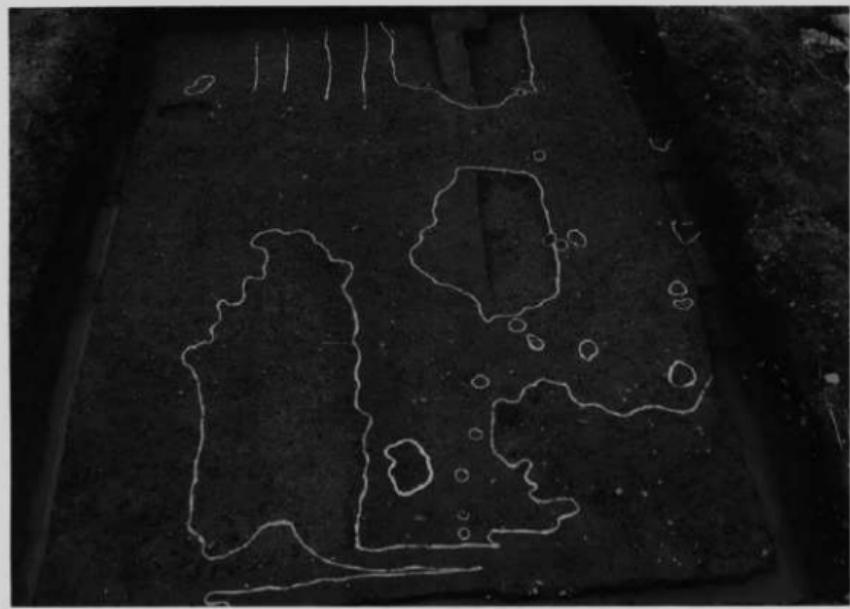
箱作今池遺跡93-5区 トレンチ全景(東より)



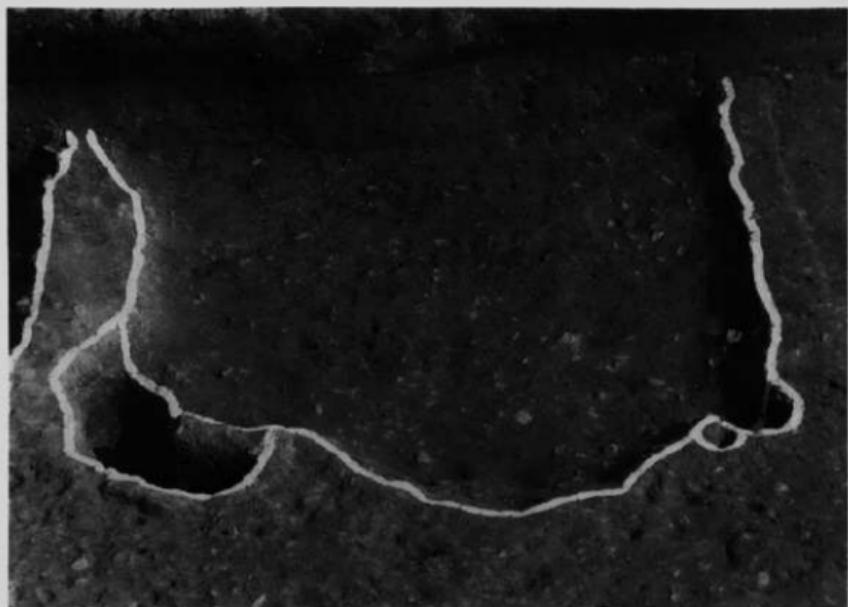
田山東遺跡92-1区 トレンチ全景(東より)



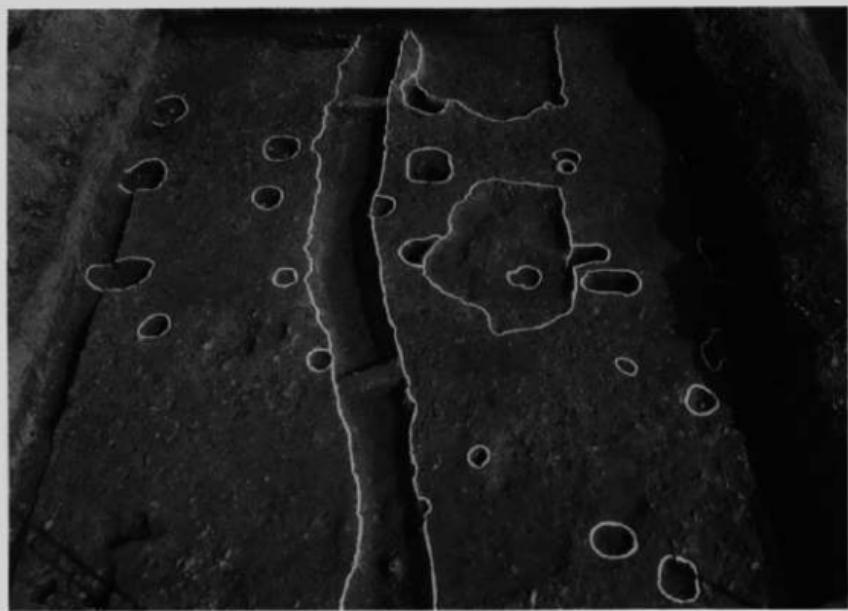
田山遺跡93-1区 トレンチ全景(西より)



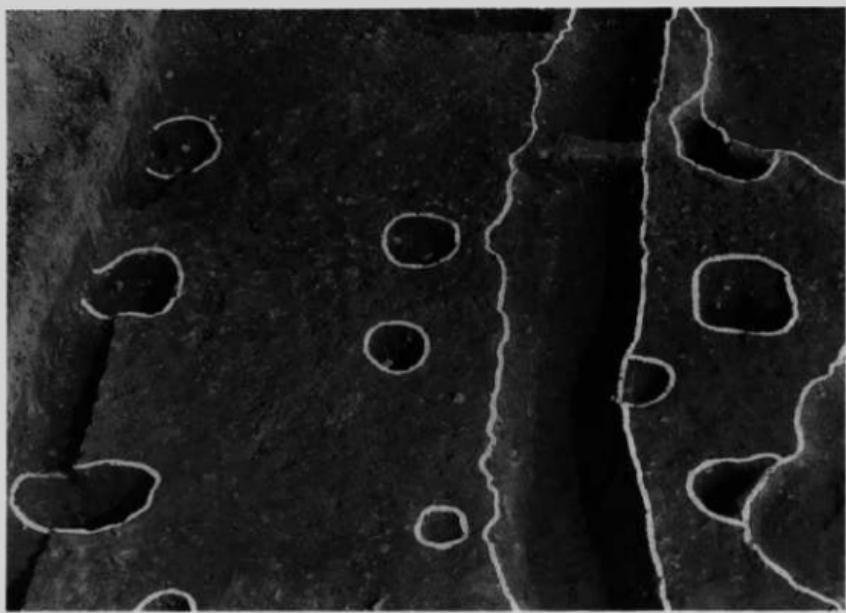
田山遺跡93-4区 第1遺構確認面全景(西より)



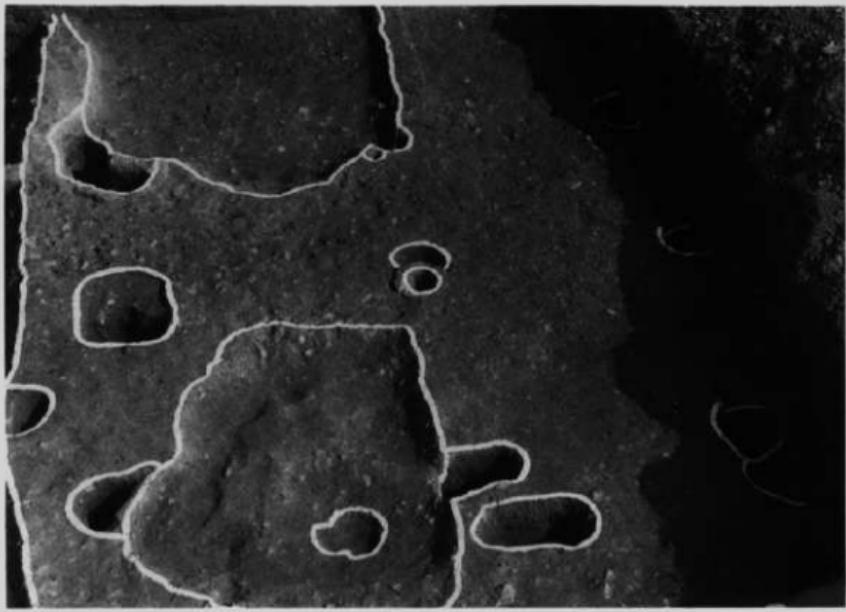
田山遺跡93-4区 土坑1(西より)



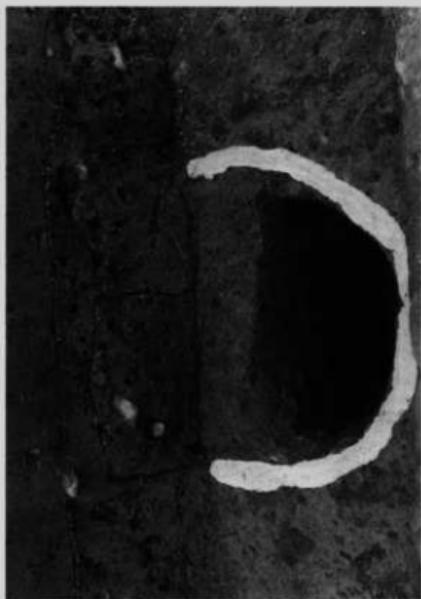
田山遺跡93-4区 第2遺構確認面全景(西より)



田山遺跡93-4区 建物(西より)



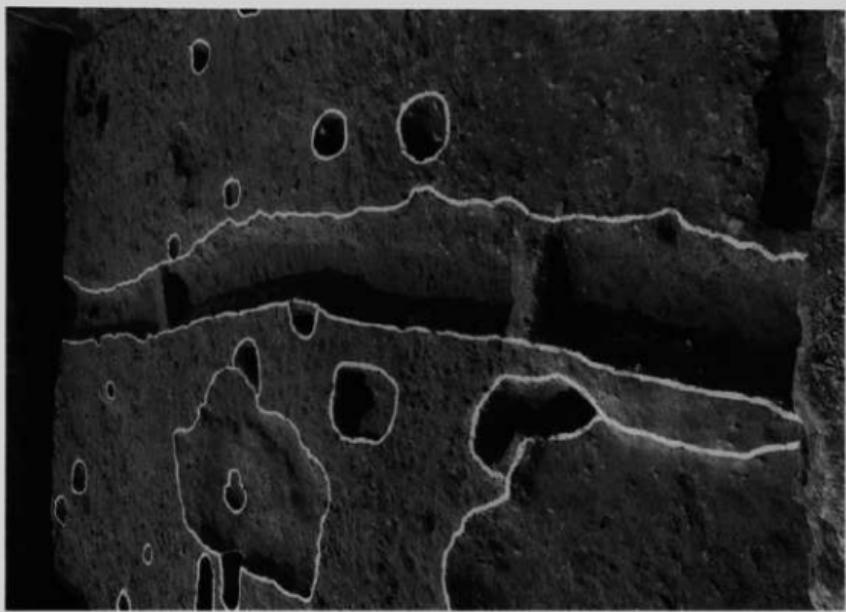
田山遺跡93-4区 建物(西より)



田山遺跡93-4区 ピット11南側断面



田山遺跡93-4区 溝1断面



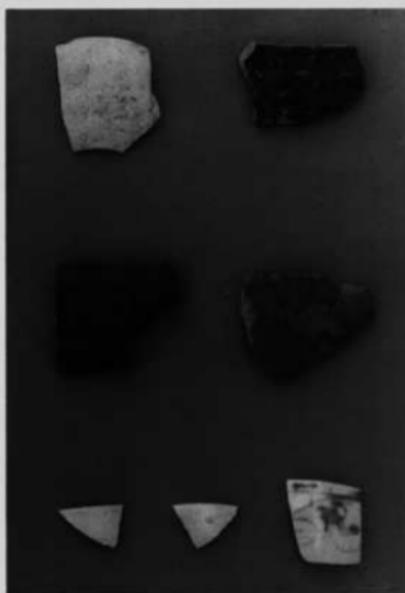
田山遺跡93-4区 溝1(東より)



馬川遺跡92-5区 出土遺物



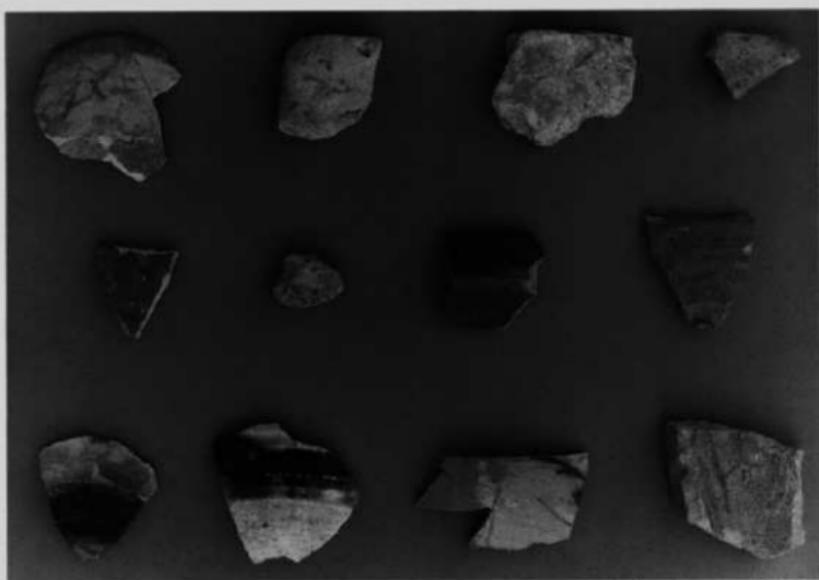
馬川遺跡92-6区 出土遺物



下出遺跡93-1区 出土遺物



下出遺跡93-1区 出土遺物



下出遺跡93-2区 出土遺物



向出遺跡93-3区 出土遺物



向出遺跡93-1区 出土遺物



自然田遺跡93-1区 出土遺物



和泉鳥取遺跡93-1区 出土遺物



鳥取北遺跡93-4区 出土遺物



鳥取北遺跡93-1区 出土遺物



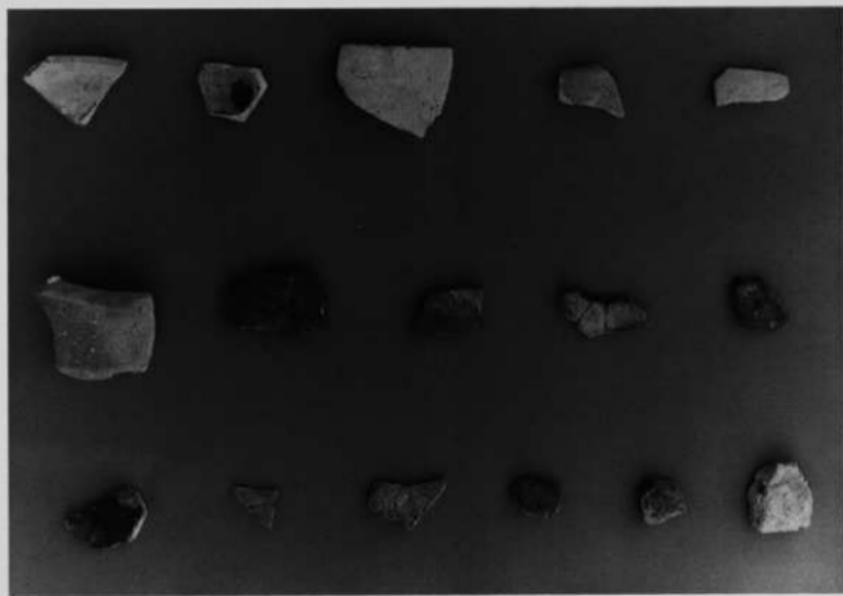
鳥取遺跡93-1区 出土遺物



鳥取遺跡93-2区 出土遺物



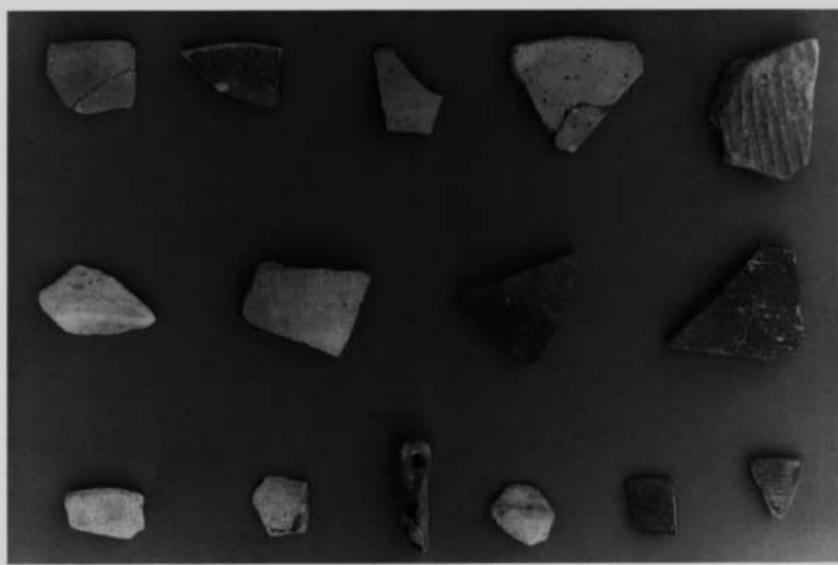
鳥取南遺跡92-5区 出土遺物



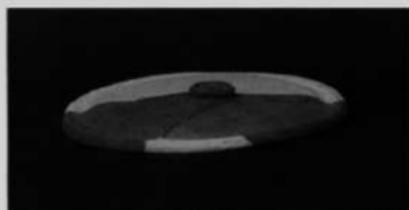
西鳥取遺跡93-2区 出土遺物



箱作今池遺跡93-5区 出土遺物



田山遺跡93-1区 出土遺物



田山遺跡93-4区 出土遺物



田山遺跡93-4区 出土遺物



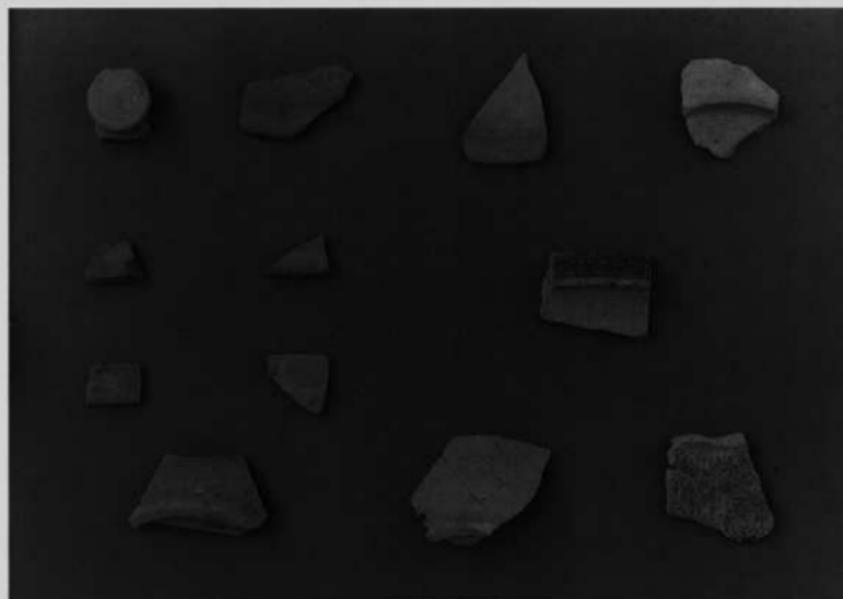
田山遺跡93-4区 出土遺物



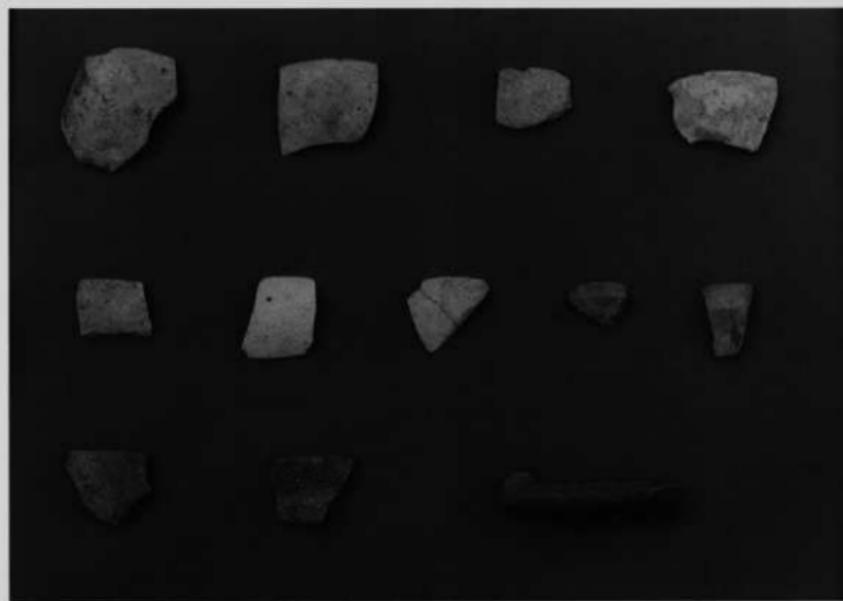
田山遺跡93-4区 出土遺物



田山遺跡93-4区 出土遺物



田山遺跡93-4区 出土遺物



田山遺跡93-4区 出土遺物



田山遺跡93-4区 出土遺物



田山遺跡93-4区 出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告 XVIII

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 IX

1994年3月

発行：阪南市教育委員会社会教育課  
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社  
和歌山市吹屋町5丁目54